

令和4年度第2回米沢市地域公共交通活性化協議会 会議録

1 日 時 令和5年3月20日（水）13:00～15:00

2 場 所 米沢市役所 庁議室

3 出席者（詳細別紙）

（委員）明間勇委員、安孫子幸一委員、安部徹副会長、安藤隆則委員、今村元一委員、大河原真樹会長、太田和広委員、河田亜依委員、黒須敬子委員、佐藤文俊委員、鈴木正幸委員、高澤由美委員、桃井義典委員（代理出席 阿部貴宏交通課長）、田中廣太郎委員、山川良雄委員、山田記子委員

※欠席者：植野みどり委員、遠藤朋佳委員、長内真委員、小山雄司委員、佐々木紀子委員、宮嶋睦男委員

（事務局）遠藤企画調整部長、佐藤地域振興課長、鈴木地域振興課長補佐、菊地地域振興主査、渡部主任

4 会議録

(1) 開会 司会：鈴木課長補佐

(2) 会長あいさつ 副市長

地域公共交通の活性化について日頃御協力いただき感謝申し上げます。

今年度実施した事業としては、万世線のラッピングバスについて好評をいただいております。万世線以外でも走らせてという要望も聞こえてきている。

学生への yamakocherica の配布について、交通系 IC カードの普及ということで、実際にバスを利用していると学生が yamakocherica を使用しているところをよく見かける。また、バス待ち環境の改善や市街地からのアクセス等、様々検討していることはあるが、我々だけでは気づかないこともたくさんあるので、是非今日の会議でも積極的に意見を頂戴したい。

(3) 議事

規定に則り、大河原会長が議長になり、議事に入る。

① 米沢市地域公共交通計画進捗状況について

事務局が資料1により説明

会 長：松川小で行われた乗り方教室の様子はどうだったか。

委 員：毎年2年生が循環バスを使ってナセBAの見学と伝国の杜・児童会館へ行くという事を行っており、その事前学習として乗り方教室を行っている。わざわざ学校の前までバスとバス停を持ってきていただき練習をしている。

子供たちも非常に楽しみながらバスの乗り方を学んでいる。

会 長：学生への yamakocherica の配布についてはどうであったか。

委 員：配布したことによって IC カードがバスでも使えることの認識が広まり、バスを

利用することへのハードルが下がったため、友達を誘ってバスで移動する機会も増えた。

乗り降りの際の両替も不要でノンストレスでバスを利用することが出来る。チャージして繰り返し使えるので、インターンシップの際にチャージして東京の駅で使っていた友人もいる。コンビニで使える点も便利。

会長：配布した yamako cherica もポイントは付与されるのか。

事務局：付与される。利用金額の3%分付与されることとなっており、累計で5,000円分利用した際にトータルで10%分付与される仕組みとなっている。

付与されたポイントが運賃相当額になった際に優先的に自動で利用される仕組みとなっている。

会長：今の点について他に確認したいことはないか。

委員：高齢者の免許返納について、今後も増えてくると思うが、米沢市として高齢者や免許返納者に対してどのような対応を考えているか。

例えば市民バスや乗り合いタクシー等で先ほど話にあったような交通ポイントを余分に付与するとか。

高齢者の交通手段への対応は今すぐに取り組むべき課題と考えている。

事務局：公共交通を必要とする多くの方が高齢者であり、高齢者のみを対象としたわけではないが、本市の公共交通計画も高齢者に重きを置いて策定した。

まちなかについては循環バスの利便性を高めて高齢者にとっても利用しやすいものへと変えていく予定であり、循環バス以外の交通モードも次年度以降検討していく予定である。

郊外エリアについては、路線バスやデマンドタクシー等について各地区にあった交通モードでまちなかに出てこられるような仕組みを整えていく。

まちなかエリアと郊外エリアに分けて高齢者が利用しやすいような公共交通の導入を計画に基づいて取り組んでいきたい。そのうえで高齢者に対するインセンティブを検討し、高齢者にとって優しい公共交通を目指して頑張っていきたい。

委員：市報のなかで高齢者に対する配慮を説明する内容を掲載して欲しい。各コミセンでの高齢者に対する講習会も今後検討して欲しい。

事務局：高齢者向けの講習としては乗り方教室を山交バスさんを中心に行っている。今年度もコミセンの館長会で案内をしており、コミセンへバスを持ち込み、乗り方について知ってもらえればと考えている。次年度についても今年度同様館長会で説明していきたい。

委員：yamako cherica での学生支援はとても良い取り組みだと思う。米沢市は学園都市と謳っているわけなので、どの程度学生の支援を行っているのかと思っていたが、このような取り組みを行っていることは知らなかったのが、非常に心強いと感じた。

この取り組みについて一過性のものではなく、継続的なものとしていただきたい。これ以外でも交通の面で学生への支援を行っていただきたい。

事務局：本市は学園都市なので、高齢者と合わせて学生のスムーズな移動についても進めていきたいと考えている。

今回の yamako cherica の配布はコロナウイルス対策及び燃料費等の高騰に対する対策も含めて行っており、約2,000万円程度の事業費がかかっている。

今後も同じような形での継続は費用負担の面で難しいかと思うが、直接の給付だけでなく、別な形での支援も検討していきたいと考えている。

yamako cherica 配布の際にアンケートも行っており、学生からも好評を得ているが、自由意見の中で、学生にとって移動が大変で公共交通を何とかしてほしいというものが多々あった。2年前のアンケートでも同様の意見を頂戴しており、このことについては循環バス南回り線を令和6年の4月から仮称学園都市線とし学生にとって利便性の高いバスダイヤや路線へと変えていき、学生にとって利用しやすい公共交通となるように今後とも進めていきたい。

委員：思い切ったラッピングバスとICカードの導入が良かった。2点質問があり、yamako cherica のポイントについて、バス運賃として利用できるということだが、それ以外の用途に活用することはできないのか、また、そのようにする場合にどのようなハードルがあるのかわかれば教えてほしい。

ラッピングバスについて、もっと台数を増やしてほしいと思うのだが、費用はどれくらいかかるのか。

事務局：費用については約220万円をかけてラッピングしており、恒常的にかかる著作権使用料については年間15万円かかることになっている。

ポイントについては、山交バスさんのサービスとなっており、交通系のバス利用に対し付与するサービスとなっているので、バス以外のものについては使えないこととなっている。今後の導入については山交バスさんと検討していきたい。

委員：山交バスが yamako cherica のポイントサービスを行っているということだが、米商連との連携を行うことで、より普及に繋がるのではないかと。

事務局：頂戴した意見を参考に山交バスさんと検討していきたい。

委員：第1回活性化協議会で館長会での説明について要望を出したが、昨年の館長会では会長をはじめ関係者に来ていただき、公共交通について説明していただき感謝する。その後7地区で公共交通について検討を進めているようだが、今後この勉強会については行っていく予定なのか。

また4月からの自転車のヘルメット着用についても話が出ているが、そのことも含めて各地区の公共交通についてご指導いただければと思う。

事務局：報告で示した7地区で勉強会を開催する予定としていた全ての地区となっている。おおむね1年程度で地区ごとに最適な交通モードを決めるところまで進めていきたいと考えている。その後は、地区の方の御協力を得ながら運行できるように継続して取り組んでいきたい。

自転車のヘルメットについて、4月から努力義務になるということなので、我々だけでなく交通安全部局や警察署と連携しながら進めていきたい。

会長：自転車のヘルメットについて、いかがか。

委員：4月から道路交通法が改正され全年齢の方への自転車利用時のヘルメット着用が努力義務化する。

すでに県の条例では努力義務となっているが、高校生以上になると着用する方は少ない。

警察としても関係機関団体と連携を強化し、高校生以上の方のヘルメットの着用について推進していきたいと考えているので御協力をお願いしたい。

会長：ほかに質問意見はないか。

委員：少しずつバスの使い勝手を良くしていただけているようで嬉しい。

今日もバスを利用してきており、大学正門前から乗車し若干の遅れがあったが、すこやかセンターでの時間調整で無事予定通りの時間に到着した。

ドライバーが忙しい中で余裕をもって快適に運行できるように改善することはドライバーにとってもユーザーにとっても良いことだと思う。

バスユーザーとして2点このようにして頂けると有難いと思うことがある。

ひとつは、山交バスの白布温泉線について、冬季間において到着予定時刻よりも遅れており、雪の降る中バスを待っていると、1シーズンに何回かではあるが、興譲館の生徒が乗っており、バスサイズも小さいため補助いすを全部出しても乗り切れず乗車を断られることがあり、この路線を利用する観光客にとってあまり印象が良くないのではないか。

ただ、次の日にはバスが空いていることもあるので、事業者にとっても混雑の予測を立てにくい中での運行だとは思いますが、冬期間は大き目のバスにする等していただけると良いのではないかと思う。

もう一つは、学生へのyamako chericaの配布について、米沢ではなく地元の自治体で全額利用している学生もおり、それは米沢市から配布されたyamako chericaなので是非米沢で使ってほしいと考えるが、配布した意図や公共交通の重要性について、また、今後米沢をよくするために必要な考え方について、冊子を作るまではしなくても良いが、何か学生に対して米沢市の公共交通について考えるような機会を与える仕組みがあると学生にとっても市にとっても良いと思うので、検討していただきたい。

また、ユーザーにとって様々な改善を図っており、高齢者にとっても勉強会等を交えて関心が高まってきているところではあるが、今後持続可能な公共交通としていくうえで、潜在的なユーザーを確保していかなければならないと考える。

そういった意味でもスライドの公共交通の基盤拡大プロジェクトは、すごく期待がもてるものだと思う。

宇都宮でのLRT（次世代型路面電車システム）運行に伴い、車両基地等で話を伺ってきたが、もちろん米沢市とは自治体の規模が異なりLRT導入に関しても様々な問題等があるとのことではあったが、米沢市でも問題点について企業とうまく連携して利用してくれる人をしっかり確保していくような戦略的なあり方を検討し

ていくのが良いのではないか。

興味を持っている企業があるのであれば、地域貢献の意味も含めてバスの利用を継続していただくうえでの工夫をしていただき、協力していくと良いのではないか。

事務局：yamako cherica 配布について、案内も合わせて送付していたが、まだまだ啓発が足りていないのが現状であるので、次回以降工夫していきたいと考える。

企業との連携については、八幡原の企業について、公共交通の問題を自分事ととらえていただいて協議をすすめている。

会津若松市においては企業と連携して民間バスを運行し黒字化をしている事例もあると聞いている。米沢でも同様のことを行えるかは疑問だが、企業と市とで上手く連携し win-win な関係での公共交通の運行について引き続き検討していきたい。

委員：白布線について興譲館の生徒が定期券を購入して利用していることから学校の時間に合わせて朝夕増便して運行している。

乗れないという時間帯はおそらく夕方、部活がない時間に乗りきれないという報告を乗務員からも伺っている。

冬季間白布温泉まで通常のバスでは運行が難しいため、除外申請を行い四駆のマイクロバスで運行している。

興譲館高校に関しても部活動がなく一斉下校するような日には大型のバスを増発するとは伝えているが、学校からは依頼が来ておらず、生徒が集中してしまい、利用者に迷惑をかけている状況。

学校とも調整を図りながら改善していきたいと考えている。

yamako cherica の学生支援について、バス利用のハードルが下がったということで嬉しく思う。ただ、配布直後に払い戻しにくる学生もおり、卒業シーズンということで県外では利用しないと学生からの払い戻しが増えている。

今後も継続的に配布を行っていただいて、公共交通を利用しやすいような環境にしていただけるとありがたい。

乗り方教室に関しては要望があればいつでも伺う。山形地区ではＩＣカードの利用がはじまってから、コミセンでの乗り方教室を行っているようなので、米沢市でも是非検討していただきたい。

委員：市立病院と三友堂病院が一緒の立地になるわけだが、川西町からそれらの病院へ通う人は西米沢駅を利用するが、そこから循環バスのバス停となると近いもので西部コミセンやすこやかセンターとなる。

病院へ通う人がそこまで徒歩や自転車で移動するということは難しいので、市外から病院を利用する人の声があれば、いずれは西駅にも循環バスのバス停の設置を検討してほしい。

事務局：循環バスについて現在１周１時間程度で回っており、時間的にいっぱい状況で、ここからさらにルートを増やすとなるとバスの台数や運転する人員を増やす

必要があり、なかなか難しい状況である。

令和6年4月のダイヤ改正時には考慮していきたいが、あまり遊びのない中でダイヤを組んでいるので、そこを踏まえての検討となる。

長井や川西からの通院に関しては東駅から病院へのアクセスは確保しているので、そちらを利用していただければと考えている。

② 令和5年度以降の事業内容について

事務局が資料2により説明

会 長：質問、意見はあるか

委 員：山交バスに確認したいのだが、高齢者の車いす利用は増えているが、山交バスで車いすをバスに乗せて市内を回るような考えはあるか。

委 員：路線バスについて現状車いすに乗ったまま乗降できるものとなっている。最大で2台の車いすが乗車できる。

委 員：米沢駅からのバスダイヤを見直すことについて、鉄道利用者の2次交通について利便性を上げることを目的としていると思うが、東口発着とすると鉄道利用者は自由通路を通らないとバスに乗れないので、余計に時間がかかるのではないか。

事務局：東口発着とし西口を経由するルートに変更を検討しているので問題はない。

委 員：現状市民バスの西口での待機時にドアを開けて停車している場合が多く、隣を車で通過する際に誰か降りてくるのではといった懸念がある。そういった点についても東口発着にすることにより解消されるので良いと考える。

委 員：令和7年度に米沢商業高校と米沢工業高校がひとつになり、現米沢工業高校の校舎を活用することとなるが、商業高校にいる約240人の学生と職員の流れが工業高校に向かってできる。

現状では商業の生徒は南駅を利用していると思うが、7年度からは米沢駅を利用することになると思う。それ以外にもどのような通勤通学手段で何人の人が動くのか予想できない。そういったことも踏まえてダイヤやルートを検討してもらえればと思う。

委 員：事務局に代わってお答えすると、飯豊小国方面の商業高校や九里学園、興譲館高校の生徒が米坂線で500人程度南駅を利用している。

高畠赤湯方面からも米沢駅で米坂線へ乗り換えて利用する学生が200人程度いる。そのうちの商業高校の生徒が小国飯豊方面からは南駅で降りずに米沢駅で降車する、高畠赤湯方面からは米沢駅で乗り換えずに降車するかたちになるだけなので、鉄道的には人流の変更の問題はないと考えている。むしろ南駅前に駐輪されている自転車の数が多く、問題になっている状況なので、商業高校分が米沢駅に集中するのであれば米沢駅の屋根付き駐輪場が使用できるのでかえって通学の利便性が向上する部分もあるのではないかと考える。

事務局：学生の足の確保として万世線で工業高校までの直行便を走らせているが、そう

いった取り組みも米工さんからの御相談を受けて始めているので、今後対応が必要なことがあれば御相談いただきたいと思う。

委員：項目4バス待ち環境の改善で、商店及びコンビニエンスストアへの協力依頼というのはバス停の設置ということか。以前はコミセンに設置という話もあったと思うが。

事務局：商店及びコンビニエンスストアへの協力については、バス停の位置を商店やコンビニの近くに設置することで、それらの店の中でバスを待つことができるようになるようにしたいという考え。コミセンの近くにあるバス停については、コミセンの前に設置することでコミセン内で待つことができるようになるので、コミセンのような公的施設とコンビニのような商業施設でバスを待つことができるようにバス停の移動を検討していく。

③ 閉会